資料２－１

# 第９期北海道総合開発計画に関する計画部会報告（概要）

国土交通省北海道局

令和５年９月15日

国土交通省
北海道局

# 計画の検討経過及び計画部会報告の概要①

国土交通省 北海道局

## 検討経過

| | |
|---|---|
| 令和３年10月14日 | 第25回北海道開発分科会（新たな計画の策定に着手） |
| 令和４年３月～令和５年１月 | 計画部会を７回開催 |
| 令和５年３月９日 | 第26回北海道開発分科会（中間整理） |
| ５月～７月 | 計画部会を２回開催 |
| ９月15日 | 第27回北海道開発分科会（計画素案） |

【北海道における議論】

・新たな北海道総合開発計画を考える地方会議の開催

各開発建設部の管轄する10地域において、それぞれの地域で活躍する方々と意見交換を行う地方会議を開催

１回目（新たな計画策定の着手時）　令和３年12月～令和４年１月

２回目（中間整理（案）について）　令和５年２月

・地域との意見交換

道内178市町村長、経済団体等約80団体との意見交換を実施

１回目（新たな計画策定の着手時）　令和３年11月～令和３年12月

２回目（中間整理（案）について）　令和５年１月～３月

# 計画の検討経過及び計画部会報告の概要②

国土交通省 北海道局

## 計画部会報告の概要

**【我が国及び北海道を取り巻く状況】**

・北海道の人口減少は全国に先行し、高齢化も全国を上回るスピードで進行。ロシアのウクライナ侵略により国内におけるエネルギーや食料の安定供給の重要性の高まり。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、特に観光をけん引してきたインバウンド需要が消失。2050年カーボンニュートラルに向けた国の政策展開。

**【３つの価値と生産空間の維持・発展】**

・これまでの北海道の強み・価値である「食」と「観光」に加え、北海道に豊富に賦存する「再生可能エネルギー」のポテンシャルによる「脱炭素化」を新たな価値として位置付け、豊かな北海道を実現し我が国の経済安全保障に貢献。

・北海道の価値を生み出す「生産空間」は、広大な面積に広域に分散しているという特殊な地域構造を持っており、人口減少が進む中で定住環境の維持が課題。

・人々のリアルな営みを支える交通ネットワーク等のインフラ整備と地方部の弱点を克服するデジタル技術の活用によって生産空間の維持・発展を図る。

**【2050年を見据えた今後概ね10年間の取組】**

・食と観光を担う生産空間の維持・発展、エネルギー供給基地も担うゼロカーボン北海道の実現、デジタル産業の集積促進、北方領土隣接地域の振興、ウポポイを拠点に文化振興に取り組む等、北海道開発を一層推進。

・気候変動による頻発する自然災害や、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震への対応による継続的・安定的な国土強靱化。

## 中間整理からの変更点

・第26回北海道開発分科会における意見を踏まえた変更
・新たな北海道総合開発計画を考える地方会議の意見を踏まえた変更
・地域との意見交換における意見を踏まえた変更　等

（変更点のポイント）
・まえがき「第９期北海道総合開発計画の策定にあたって」を追加
・半導体・デジタル産業に係る産業拠点の形成について追加　等

# 第9期北海道総合開発計画に関する計画部会報告の構成

国土交通省 北海道局

## 第９期北海道総合開発計画の策定にあたって

### 第１章　計画策定の意義

**第１節　北海道開発の経緯**

１．北海道開発の歴史
２．第８期北海道総合開発計画の経緯

**第２節　第９期北海道総合開発計画の意義**

### 第２章　計画の目標

**第１節　我が国を取り巻く状況**

１．人口減少・少子高齢化と人口動態の変化
２．気候変動と自然災害の激甚化・頻発化
３．社会を変えるデジタル技術
４．国際情勢の変化

**第２節　北海道の資源・特性**

１．広大な大地
２．食料供給力
３．エネルギー・資源
４．自然環境・文化
５．地理的特性・寒冷地技術

**第３節　2050年の北海道の将来像**

１．国の課題解決のために果たすべき役割
２．将来像
３．将来像を支える社会基盤
４．将来像を実現するために進むべき方向性

**第４節　第９期北海道総合開発計画の目標**

目標１「我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」
目標２「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靭な国土づくり」

### 第３章　計画推進の基本方針

**第１節　計画の期間**

この計画の期間は、2024年度からおおむね10年間とする

**第２節　計画の主要施策**

**第３節　計画の進め方**

１．リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成
２．計画の実効性を高めるための方策
（１）官民の垣根を越えた「共創」
（２）社会変革の鍵となるＤＸ・ＧＸの推進
（３）フロンティア精神の再発揮
（４）戦略的・計画的な社会資本整備
３．計画のマネジメント

### 第４章　計画の主要施策

**第１節「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」に係る主要施策**

１．食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
２．観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
３．地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現
４．地域の強みを活かした成長産業の形成
５．自然共生社会・循環型社会の形成
６．北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興
７．アイヌ文化の振興等

**第２節「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靭な国土づくり」に係る主要施策**

１．デジタルの活用による生産空間の維持・発展
２．多様で豊かな地域社会の形成
３．北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
４．生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり

# 第9期北海道総合開発計画の策定にあたって

国土交通省 北海道局

## 1. 「他で代替できない北海道の価値」を考える視点

**価値の再構築**

| 代表的な価値（現行計画以前） | | 外部環境の急変（R1-4年） | 価値の再構築（R5～新計画）（3つの価値） |
|---|---|---|---|
| 食 | 北海道の食料自給率約200% | ウクライナ侵略による食料危機 | 食 |
| 観光 | 来道外国人旅行者数12年で7倍に | コロナ禍による激減と再生 | 観 光 |
| | | 2050年カーボンニュートラルへのコミット | 脱炭素化 |

**目標1**

**我が国の豊かな暮らしを支える北海道**

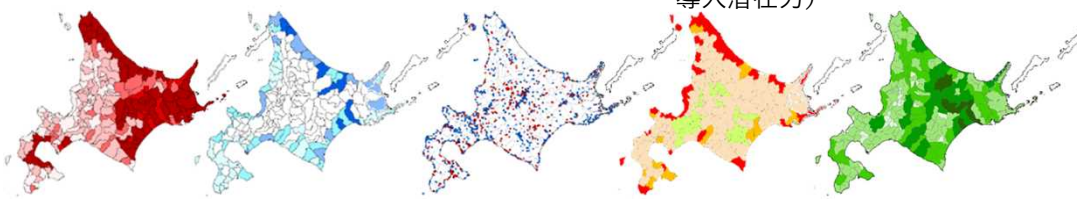
- 食料安全保障
- 観光立国
- ゼロカーボン北海道

## 2. 「価値を生む空間」を考える視点

**生産空間の維持**

**北海道の強み** ～いずれも全国随一のポテンシャル～

（農業産出額）（漁業生産額）（観光資源）（再生可能エネ導入潜在力）（森林蓄積量）



**課 題**

「特殊な地域構造」「厳しい自然環境」の条件下における定住環境の維持

**目標2**

**北海道の価値を生み出す北海道型地域構造**

- 生産空間の維持・発展
- 強靭な国土づくり

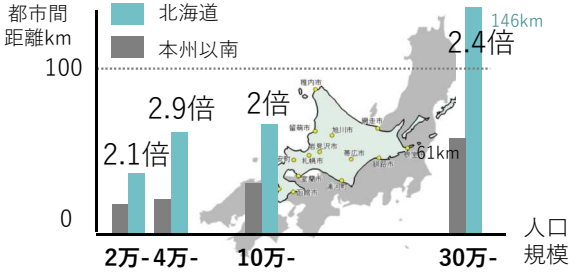
## 3. 「価値の最大化」を考える視点

**例）リアルのネットワーク化とデジタルによる補完**

生産空間で価値を創出する
**リアルの維持**
×
地方部の弱点を克服する
**デジタル技術**
||
**3つの価値の最大化**

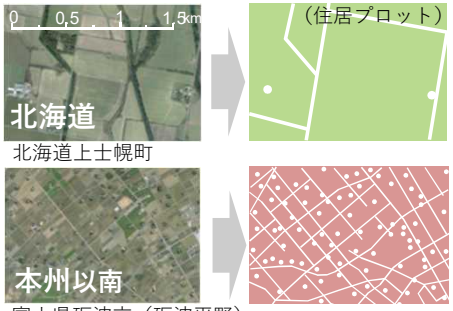
### （参考）国土計画的視点から見る北海道の地域構造

**【マクロ(都市間)】** 最寄都市間距離※は本州以南の2～3倍

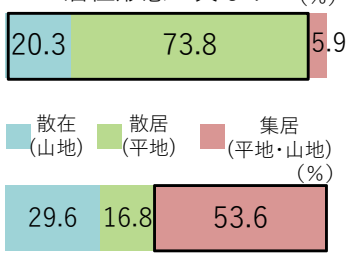



※30万-の例：30万人未満の各市町村から最寄りの30万人以上の都市までの平均道路距離

**【ミクロ(集落内)】** 集落内住居は散在・散居形態が9割




居住形態の異なり




「二重の疎」

「二重の疎」は、高い食料供給力、豊富な観光資源、再生可能エネルギーのポテンシャルの高い北海道の価値を生み出す「恵まれた疎」

**人口減少による「生産空間」の空白化を抑え、価値を最大化して現下の我が国の課題を解決**

# 計画部会報告　第１章、第２章の概要

国土交通省 北海道局

## 第１章　計画策定の意義

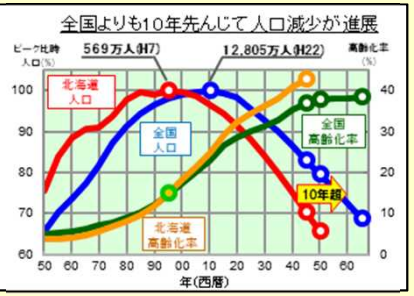
《北海道開発の基本的意義》北海道の資源・特性を活かして、その時々の国の課題解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図る。

- ○　第８期計画では、北海道の強みである「食」と「観光」を担う「生産空間」を支えながら「世界水準の価値創造空間」の形成を目指すこととした。
- ○　しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会経済活動への影響、2050年カーボンニュートラルに向けた国の政策の展開、ウクライナ情勢や円安等を背景としたエネルギー・食料品の価格高騰や国際的な供給不安の発生等、北海道開発を取り巻く状況に急速かつ大きな変化が生じている。
- ○　食料供給力が高く、観光資源に恵まれ、再生可能エネルギーのポテンシャルが高い北海道は、その資源・特性を活かして、我が国の経済社会づくりを先導する役割を担っていかなければならない。
- ○　北海道開発を推進するためには、あらゆる主体がデジタル技術を活用して連携・協働し課題解決の取組を推し進めていくことが必要である。また、多くの課題を国だけが主体となって解決することは困難であり、各主体が北海道の地域特性を踏まえた将来像と目標を共有することが重要である。
- ○　このため、2050年までの長期を見据えた今後おおむね10年間の北海道開発の展開の方向と施策の内容を示す「第９期北海道総合開発計画」を策定する。

## 第２章　計画の目標

### 第１節　我が国を取り巻く状況

- ・北海道の人口減少・高齢化は全国を上回るスピードで進行。
- ・北海道は全国の他の地域と比べて気候変動の影響による将来の降雨量の増加率が大きいと予測。水害等の激甚化・頻発化や農作物の生育障害等の深刻化が懸念。
- ・エネルギーや食料品の価格高騰や国際的な供給不安の顕在化等、取り巻く状況は急速かつ大きく変化している。




### 第２節　北海道の資源・特性（ポテンシャル）

豊かな資源に恵まれた北海道には、変化に立ち向かい課題を解決する「広大な大地、食料供給力、エネルギー・資源、自然環境・文化」等のポテンシャルがある。

### 第３節　2050年の北海道の将来像

#### 国の課題解決のために果たすべき役割（６つの役割）

① 分散型国づくりを支える地方創生を先導する
② 我が国の食料安全保障を支える
③ 我が国の脱炭素化を先導する
④ 北海道の自然環境・文化を受け継ぐ
⑤ 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土をつくる
⑥ 競争力のある産業を育成し我が国の経済成長に貢献する

#### 将来像

- ➢ 食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを活かした産業が国内外に展開し、豊かな北海道が実現することで、我が国の経済安全保障に貢献している。
- ➢ デジタルの実装により、北海道内の地方部における定住・交流環境が維持されるとともに、国内外から人を魅きつける多様な暮らし方が実現している。

#### 将来像を実現するために進むべき方向性（12の方向性）

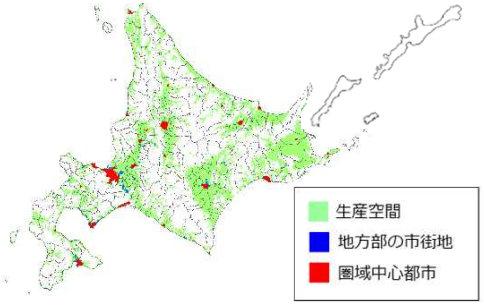
- ➢ 世界市場を見据えた「食」、「観光」、「再生可能エネルギー」産業を形成
- ➢ 北海道独自の文化を保全・継承
- ➢ 北方領土隣接地域等の振興を実現
- ➢ 地域で生まれ、育ち、安心して暮らしていくことのできる社会を形成
- ➢ 大規模災害から生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持　　等

### 第４節　第９期北海道総合開発計画の目標

## 第３章　計画推進の基本方針　第３節　計画の進め方

### １．リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成

「北海道型地域構造」は、広域に分散している人口分布状況や１次産業の生産活動が地方部で営まれている現状を踏まえ、都市機能・生活機能に着目して「生産空間」「市街地」「圏域中心都市」の３層構造で構成。




「生産空間」は主として地方部に存在し散居形態。

食料生産は実際にその場に住み続ける、観光は実際にその場に行くというリアルを前提に成立。

リアルを支えるインフラが不可欠。

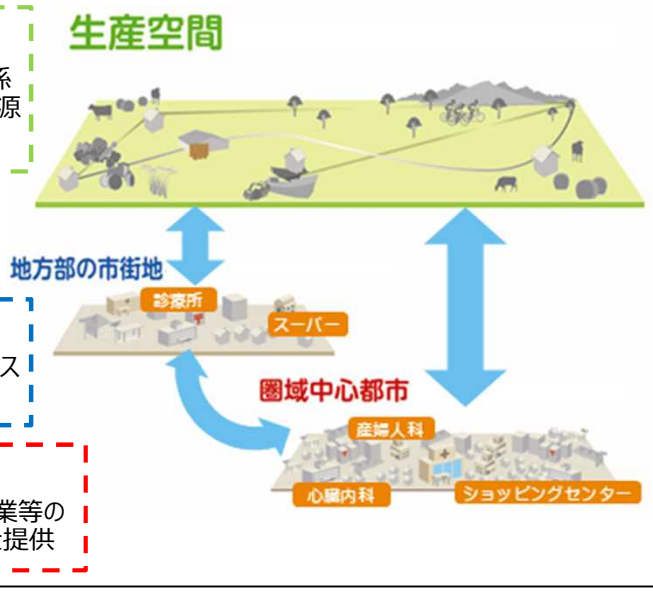
広域分散型社会における生活環境を維持するためには、時間と空間の制約を克服できるデジタル技術の活用が有効。
実際の人々の営みを支えるリアルな生産空間をデジタル技術の活用によって補強・補完することを各種施策推進のコア概念として、「生産空間」を維持・発展させる施策を展開する。

#### 北海道型地域構造（イメージ）

■生産空間
主として農業、漁業に係る生産を支え、観光資源を提供する空間

■地方部の市街地
一定程度の生活サービス機能を提供する地域

■圏域中心都市
医療、教育・文化、商業等の都市機能・生活機能を提供




### ２．計画の実効性を高めるための方策

○広大な北海道は、多様で個性的な地域から成り立っており、それぞれの個性、地域資源を活かし、地域の課題の解決を図り、独自性のある発展を遂げることが重要。

○北海道開発局開発建設部、地方公共団体、ＮＰＯ、企業、教育機関等による連携体制を構築し、北海道の価値を高めるための官民共創の取組を推進。

#### 地域共創チーム（仮称）の取組“イメージ”

**地域共創チームの設置**
（例）
・北海道開発局開発建設部
・地方公共団体
・NPO
・企業
・教育機関
・社会福祉法人　　等

**ニーズの把握**
（例）
・デジタルの活用方法が思いつかない
・収穫期の労働力が足りない
・消費額の大きい道外客、外国人観光客を増やしたい

**取組の企画・立案**
（例）
・人材マッチングシステムの活用による農業短期就労の支援
・新たな観光メニュー、滞在コンテンツ造成

## 第３章　計画推進の基本方針　第３節　計画の進め方

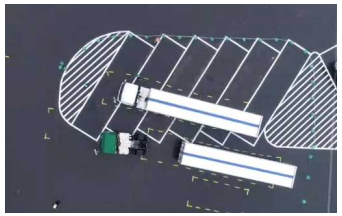
### ２．計画の実効性を高めるための方策

#### （１）官民の垣根を越えた「共創」

・北海道の価値、魅力や可能性について、未来を担うこどもたちに伝える取組を推進。
・果敢に挑戦する人材の育成等人への投資を推進。
・民間企業等が公的役割を担う取組を支援し、地域の課題を解決する社会を実現。

防災インフラを学ぶ「ほっかいどう学」
出典：ほっかいどう学新聞第11号より
（認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム）

創業支援・長期インターンシップの取組
出典：NPO法人北海道エンブリッジ

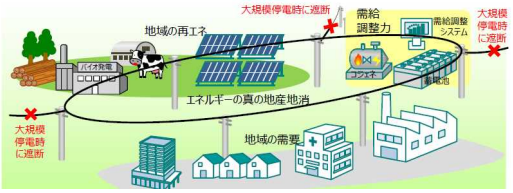


生産空間の物流を支える取組（物流事業者と連携し、道の駅を活用した中継輸送）

#### （２）社会変革の鍵となるＤＸ・ＧＸの推進

・経済社会システムを変革し、課題解決と新たな価値を創出するDX・GXを推進。
・カーボンニュートラルの実現に向け、豊富に賦存する再生可能エネルギーを最大限活用。

北海道における自動運転実証試験の実施
出典：北海道自動車安全技術検討会議（事務局：北海道）HP




地産地消の分散型エネルギーシステム構築の促進
出典：資源エネルギー庁HP

#### （３）フロンティア精神の再発揮

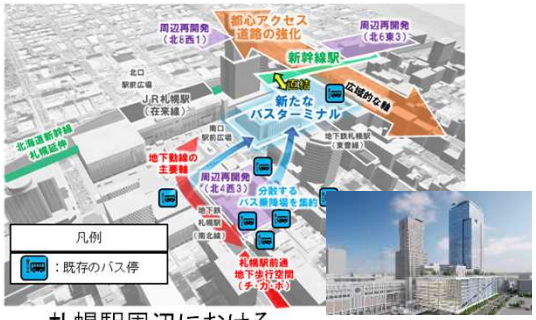
・宇宙関連産業など地理的・気候的な優位性を活かした先駆的産業の成長。
・北海道の強みである農業等でフロンティア精神を再び発揮。

北海道大樹町で開催された
「宇宙サミット2022」
写真：北海道宇宙サミット実行委員会提供

#### （４）戦略的・計画的な社会資本整備

・流域治水やグリーンインフラ等北海道の自然や地域特性を活かしたインフラ整備。
・食料安全保障に貢献する生産基盤の強化や観光振興にも寄与する交通ネットワークの整備。

北海道の地域特性を活かした流域治水




札幌駅周辺における
交流拠点整備（イメージ）
提供：札幌駅交流拠点北5西1・西2地区市街地再開発準備組合

耐震強化岸壁等の整備

スマート農業に対応した
農業生産基盤の整備

# 計画部会報告　第4章の概要

国土交通省 北海道局

## 第４章　計画の主要施策

北海道の強み「食」、「観光」を一層強化
**１．食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展**
**２．観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり**

輸入依存度の高い小麦・大豆・飼料作物の生産・利用拡大

高付加価値旅行者に向けた観光コンテンツ創出
（冬のダム湖を活用した氷のメリーゴーランド「アイスカルーセル」）

「脱炭素化」におけるポテンシャルの発揮で全国の地球温暖化対策を先導し地域経済に利益をもたらすとともに地域の強みを活かした成長産業を育成
**３．地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現**
**４．地域の強みを活かした成長産業の形成**

地域資源の有効活用、エネルギーの地産地消等による地域活性化
（写真：鹿追町中鹿追バイオガスプラント）

Rapidus工場イメージ図
出典：Rapidus(株)作成　作図協力　鹿島建設(株)

北海道の雄大な自然や多様な文化等の価値を維持し、北方領土隣接地域や国境周辺地域の振興に取り組む
**５．自然共生社会・循環型社会の形成**
**６．北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興**
**７．アイヌ文化の振興等**

遊水地等を活用した生態系ネットワークの形成（提供：タンチョウも住めるまちづくり検討協議会）

北方領土問題解決のための環境づくり
（啓発活動の様子）

アイヌ古式舞踊の披露

離島港湾の整備

【目標１】
**我が国の豊かな暮らしを支える北海道**
～食料安全保障、観光立国
ゼロカーボン北海道

【目標２】
**北海道の価値を生み出す北海道型地域構造**
～生産空間の維持・発展と強靭な国土づくり

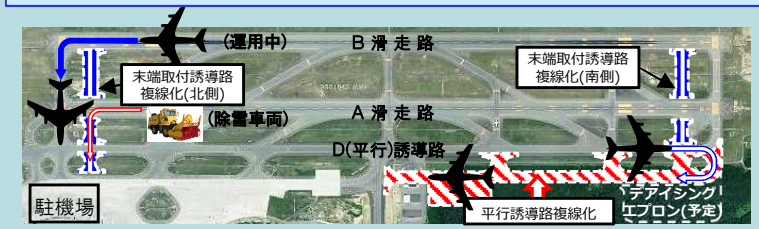
デジタル技術により時間と空間の制約を克服し必要なサービスを享受
**１．デジタルの活用による生産空間の維持・発展**

多様な人材の地域活動への参加促進、生産空間の魅力や定住・交流環境の向上による地域コミュニティの維持
**２．多様で豊かな地域社会の形成**

食品を載せて自宅前に到着するドローン
出典：北海道経済産業局HP

医療介護連携ICT
（タブレットを持って訪問する訪問看護職員）出典：名寄市

生活サービスへアクセス可能な交通ネットワークの確保、広域的な人流・物流を支える交通・輸送体系の強化
**３．北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成**




空港の受入機能強化

高規格道路の整備

生産空間と地域の暮らしを守り北海道のポテンシャルを活かして我が国の国土強靭化に貢献
**４．生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり**

根幹的な治水対策としての遊水地の整備

積雪寒冷を考慮した防寒機能付の津波避難タワーの整備